

第1回 長野市大規模施設の長寿命化改修事業に係る 実施設計技術協力事業者選定委員会 会議録

- 1 日 時 令和5年1月19日(木) 午後3時30分から午後5時まで
- 2 場 所 エムウェーブ 110号大会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員 6名 横田典久委員長、高村秀紀副委員長、蒲谷俊樹委員、久保田達也委員、中村裕一委員、小林祐二委員
 - (2) 事務局及び市関係者 10名
 - (3) 報道関係者 3社
 - (4) 傍聴者 0名

4 会議

- (1) 開会(事務局)
- (2) ECI事業者選定委員会について(事務局)
資料1・資料2について説明
- (3) 委員長あいさつ(横田委員長)
- (4) 選定委員の委嘱
- (5) 委員自己紹介
- (6) 副委員長(職務代理者)選出
(事務局)

選定委員会設置要綱第5号第2項では、副委員長は委員の皆様の互選により決定するとなっております。

ご意見ございましたら、ご発言ください。

(A委員)

委員長に腹案があれば、お聞かせ願いたい。

(横田委員長)

ありがとうございます。

ただいま、A委員から、ご提案をいただきましたが、副委員長には、現在、長野市住宅対策審議会の委員及び長野運動公園総合体育館設計施工者選定委員会の委員を務めており、また、審議会で市政に対して、非常にご尽力いただいております、信州大学工学部教授の高村秀紀様をお願いできればと思い

ますが、皆様いかがでしょうか。

(全員) 異議なし

(事務局)

それでは高村委員に副委員長をお願いしたいと思います。どうぞよろしく
お願いいたします。恐れ入りますが、席の移動をお願いします。

(7) 副委員長あいさつ (高村副委員長)

(8) 議事

(事務局)

議事に移ります。

議事進行は、「選定委員会設置要綱」の規定により横田委員長をお願いいた
します。

(横田委員長)

それでは、議事の進行を務めさせていただきます。

円滑な議事の進行にご協力をいただきますよう、お願いいたします。

ア 会議の公開・非公開について (事務局)

資料3について説明

(横田委員長)

これに関しまして、委員の皆様からご意見等ございましたら、お願いいた
します。

特にご意見がないようであれば、今後の選定委員会については非公開とし、
会議資料や会議録、最終結果については、プロポーザルの公告後、または、
事業者の選定後に公開することとしたいと思います。

傍聴されている方は、申し訳ありませんが、ご退席をお願いいたします。

イ 基本設計(案)概要について (事務局)

(横田委員長)

「(2) 基本設計(案)の概要」と「(3) 実施要領(案)」については、
内容が関連していますので、まとめて事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料4について説明

ウ 実施要領（案）について

（事務局）

資料5-1、資料5-2、資料6について説明

（横田委員長）

ただいま、基本設計の概要と実施要領について説明がありました。

これに関しまして、ご意見・ご不明な点等がありましたら、お伺いします。

（B委員）

資料4の8ページの基本設計概要（7）について、現状の設備を導入したときの設計思想、この組み合わせ（ガスが燃焼系の中心の設備）にした理由が分かれば、知りたいと思ったことと、現状のデータ等で、機器の実際の運用の評価をどの程度しているのか教えていただければと思っています。

運用実績の分析も含めて、現状がよく分かっていると、次の選定委員会の時の参考になると思います。

（事務局）

手元に資料が無いので、詳細についてお答えできませんが、当時、環境が1つのテーマになっていました。エネルギーを消費するだけでなく、ここで発生する余熱を利用して、違うものに有効利用できるのではないかとということで、シートの8にあるように、ベースになる排熱を利用することが大きな目玉でした。

（横田委員長）

また、調べていただいて、各委員にメール等でお知らせいただければと思います。

（B委員）

設計思想どおりに運用されたのかどうか、次の設計に役立つ情報になるかもしれません。

（事務局）

当時の設計思想と運転状況の2点を調べまして、メールもしくは直接説明をしたいと思います。

（横田委員長）

その他ご意見、ご質問はどうでしょうか。

（C委員）

そもそも論になってしまいますが、選定された事業者は、基本設計に対してどこまで意見が言えるのでしょうか。

例えば、設備系の強い会社がこの基本設計をみた時に、明らかにこの方式は不利だと思った場合でも、それは設計の話であるから、「こうしたらもっと施工が楽になるから工事費が安くなる」といった提案しかできないのか、どこまで言えるのか、その辺を教えていただければと思います。

それによって多分この技術提案を求める印象が変わってくると思うのですが。

(事務局)

ただいまのご質問ですが、最近まで同様の内容について我々も議論しておりました。今回のプロポーザルの中で技術提案として求めたいものは、非常に短い工事期間の中で、基本設計で求めている工事を確実にできるかと、コスト削減の2つに注目しております。現段階では、限られた時間の中でこれだけのものができる事業者を選んでいくということが、このプロポーザルの中でメインになっています。

ただし、おっしゃるとおり、こうした方がいいのではないかというアイデアを排除することは、もったいないと思いますので、その辺は引き続き実施要領を検討して、主な評価項目にプラスアルファ、基本設計に対する提案といった項目を加点したらどうかとも思っています。

(C委員)

これから検討していくことをはっきり仕様書に書いておかないと提案できないと思います。

(事務局)

先ほど申し上げたとおり、今の提案内容のスキームは、工期内での施工とコスト、そこに着目しています。

基本設計内容をどのように実現していくかというところに注視していますが、C委員からご指摘があったとおり、このECI事業者の提案の中でどこまでくみ取るかを考えたいと思います。

(事務局)

加えて、資料の5-1の実施要領(案)の15ページをご覧いただきたいと思います。2技術提案等の作成の(1)の1番下、「その他本工事において、施工上特に注意すべき事項とその解決について」をご提案いただけるようにはしているのですが、当初我々が考えていたのは、“なお書き”の「解決策が設計内容の変更を伴うもの」を除こうと思っておりました。

今、C委員からご発言があったとおり、これをもう少し柔軟に対応できるように検討してまいりたいと考えております。

(横田委員長)

その辺については、内容を詰めていただいて次回に回答いただければと思います。

その他何かご意見はありますか。

(D委員)

質問が2点あります。まず1点目ですが、基本設計を行った事業者が、実施設計も引き続き行うのでしょうか。

(事務局)

はい。引き続き行います。

(D委員)

もう1点、屋根の形状が非常に複雑ですが、現状でどのように雨水を排水しているのかを教えてください。

(事務局)

湾曲した屋根の各段には3メートルの段差がありますが、それぞれが下段、下段へ雨水を落としていき、西側と東側の最終の段のところで、縦樋にて下に落とす形となっています。

(D委員)

分かりました。

(横田委員長)

他にご意見やご質問等はございますか。

(C委員)

先ほどの延長になるかもしれませんが、ECIの提案で「屋根の合板の幅を広げて、シーリングをもっと打ちやすくすることによって、日々のメンテナンスをもっとしやすくなります」といった提案がECI事業者から出てくるとしたら、そういうものも拾えると良いと思います。

(事務局)

そのようなご提案をこの委員会で評価する場合は、非常に技術的に高度な話にもなると思います。基本設計に対してこれが優れている、優れていない、といった項目もこの委員会で審議していただき、加点の要素とする方法もありますが、基本設計の内容で工程や施工方法、コストというところを押さええてしっかり決めた後で、プラスアルファの提案も含めて、実施設計に持ち越

して、その中でもう1回吟味して、採用するか否かを考える方法もあると思います。

特にエムウェーブは屋根の漏水が課題です。ステンレス防水がどうしてもうまく機能せず、見ても分かるとおりに、吊り屋根になっていまして、吊り屋根の排水がうまくできていません。それは、吊っている材料が多少クリープしており、それに伴って排水がうまくいってないので、これをどうやれば、漏水もなく、長きにわたって、適切に維持できるかというところを非常に重視しているところです。

なおかつ、非常に広い屋根面を、休館している約5ヶ月、週休2日でいくと110日ぐらいしかありませんが、その休館期間内で施工することは、非常に難航すると考えられます。

加えて、漏水の原因の一つが、当時の施工方法にもあったのかもしれませんが。瑕疵があるというわけではなく、ステンレス防水は薄く、その上で何か作業を施したために傷が付き、それが、漏水の原因になることがあります。この場合、段々になっている屋根を上から施工して、順に下へ逃げてくれば良いのですが、ハイサイドライトのところに足場を組む作業が必要になってきますので、防水の施工をした後に足場を組んだこともあり、不具合が出ていることも考えられます。

したがって、一番頂部から施工して逃げてくる方法が、傷が付かなくて良いかと思っていますが、そういうことも考えていくと非常に工程が難しいと思います。

もちろん荷揚げにしても、基本設計概要（案）でご紹介しましたが、相当大きなクレーンを持ってこないと施工できません。

また、写真で紹介した野地板の腐食等もあり、それが工事を進める上での不確定要素にもなります。

建築の場合は屋根が一番の課題ですが、限られた期間で、できる限りリスクを回避するような方法をご提案いただいて、確実な施工で工事期間の短い事業者を選びたいと思います。

（C委員）

基本設計は、設計者が作ったとおりにして、それを事務局がおっしゃったとおりに、いかにしっかりと施工し、施工者のノウハウによって更に工期が短く、費用が安くできる事業者を選ぶということですね。

（事務局）

重ねての発言になりますが、プラスアルファの評価もあればというところでは。

（C委員）

分かりました。ありがとうございます。

(横田委員長)

その他いかがでしょうか。

それでは、この実施要領（案）及び基本設計の作成は、次の委員会まで時間がありますので、皆様、今一度しっかり内容確認をしていただく中で、ご意見等あれば事務局にお寄せいただければと思います。

次に次第の（４）現地確認を行います。

エ 現地確認（事務局）

(横田委員長)

皆様、現地確認お疲れ様でした。

議事を再開したいと思います。現地確認に行っていたいただきましたが、ご意見、ご不明な点等がありましたら、お伺いしたいと思います。

よろしいでしょうか。

それでは、本日の議事につきましては以上でございます。
全体を通して、何かご質問、ご意見等あればお願いいたします。

(C委員)

機微に関わる内容があるので、守秘義務のような取り決めをした方が良いのではないのでしょうか。

(事務局)

C委員からのご指摘、まさにそのとおりで、委員の皆様には、本日、私も説明した情報について、他言していただかないようお願いしたいと思います。

それを文言としてどこかに載せるかということについても、要綱ができてるので、今日のこの委員会の中で、申し合わせをしたということで、委員の皆様には守秘義務を持って、委員の職務に当たっていただきたいということでもよろしくお願いいたします。

(C委員)

承知しました。

(横田委員長)

他にご意見、ご質問あればお願いいたします。

よろしいでしょうか。

以上で議事を終了いたします。

円滑な進行にご協力いただきましてありがとうございました。

それでは進行を事務局にお返しします。

(9) その他（事務局）

(10) 閉会（事務局）

以上